

2013年度開講科目

調査実習概要報告書

/

2014年4月16日

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	たかはら もとあき 高原 基彰		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-130707-0	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生たちは、ゆるやかに共有されたテーマに沿って、各自がフィールドを選択し、フィールドへのアクセスとラポール構築を行った後、現地調査とインタビュー調査によるデータ収集とその分析を行い、論文を作成した。こうした最低限の課題は全員が達成した。参与観察的なフィールドワークをとまなわないうインタビュー主体の調査のうち、社会的背景の学習不足により、やや表面的な分析に留まるものが散見された点が惜しまれる。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：受講者がアクセス可能な集団や組織へのフィールドワークを通じ、身近な問題発見を行うと同時に、その問題をマクロな社会的文脈とつなげて考察することで、社会学的な「ミクロ-マクロ連関」の思考法を習得することを目的とした。対象の選定に際し、「労働」に関するものと条件をつけた。
2. 調査の内容/概要：「労働」というテーマ設定に沿う、参加者の接触可能なフィールドを個別に選定するよう指導した。参加者の希望を集計した結果、「就職活動というトランジションとその後のキャリア形成の多様性」というテーマが導き出され、それを元に個別の研究を推進した。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：「労働」というテーマ設定に沿う、参加者の接触可能なフィールドを個別に選定する方式を取った。紙幅の限りで以下に列挙すれば：「高卒・大卒の就職活動の比較」「就職活動における職業志望動機の形成」「転職という決定における過去の失敗経験と将来期待」「兼業農家の多様性：JA取引中心型・ブランド作物
4. 主な調査項目：インタビュー調査の質問項目としては、当該の活動を始めた経緯、活動の内容、その中で得られる充実感、活動環境として改善すべき点、活動内外の人間関係など。並行して現場観察の上フィールドノートを作成し、また可能な場合は参与観察として活動へ参加した。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：各自の対象となる団体に接触し、参与観察によるフィールドノート、および対象者をスノーボール・メソッドで探した上での半構造化インタビューを行った。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：実施時期は主に夏季休暇だが、後期学期中も継続的に行った。調査地は上記の通りで、調査員は計20名だった。主な調査地は3欄に同じである。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：インタビュー調査は一人当たり3-5人、一回平均して30分前後のデータが収集された。参加者個人によるばらつきが目立ったが、論文作成に最低限の質は担保されていた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：佐藤郁哉『フィールドワークの技法』（新曜社、2002）を課題図書として選定し、データ収集の方法とともに、「仮説構築型」のデータ分析の方法論を講義し、実践させた。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：参加者の問題関心は、「就職活動」にまつわるものと、すでに就業した対象者の「キャリアの多様性」に大別された。この二つの視点からという限られたスコープではあるが、参加者自身たちに近い、関西の若者たちの就業・老翁の現状の一端を厚く記述した事例報告集となった。
10. 報告書刊行の予定と概要：ゼミ内で内容を共有しているが、報告書として刊行の予定はない。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)に、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。